

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872000948		
法人名	(株)キュート		
事業所名	グループホームたんぽぽ	ユニット名(3階)
所在地	〒305-0861 茨城県 つくば市谷田部 3393-1		
自己評価作成日	令和5年 9月 30日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 1 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「思いやりと笑顔・一人ひとりの生き方を大切にす・地域の人達に交流に参加する」を理念におき、利用者や施設という型にはめないよう努力し日常支援を行っている。また利用者との暮らしの中に、居心地のよい空間で季節を感じながら楽しみや生きがいが増えるよう、月一のレクリエーションや日々の活動内容を考案している。特に制作は利用者が興味を持って参加できるよう季節に合わせて準備し共に行い掲示している。コロナ禍で家族との関わりが途切れないようにたんぽぽ通信を通して利用者の様子を知らせている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyouvoCd=0872000948-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は常磐高速道ICから近く、幹線道路から少し入った交通利便性に富んだ場所に立地している。施設長は「健康と暮らしの向上」を目標にし、管理者・職員は「楽しく過ごす」を共通意識とする等、利用者へ「居て良かった」と思ってもらえる事業所を目指して支援している。無記名式アンケートの実施や利用者の生活の様子を写真とコメントで紹介する広報誌に添えて、一人ひとりの健康状態等を記載したメモを毎月家族等に送付する等、家族等との絆を大切にしている。消防署立会の避難訓練を年2回実施している他、抜きうちでの訓練を月1回実施したり、AEDを設置し全職員が定期的に救命講習を受ける等安全管理意識が高く、実践に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが				

1. システム概要

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義を踏まえた「地域の人達の交流に参加します」の理念は目のつく場所に掲示し、地域との関係性が途絶えないよう実践していたが、コロナ禍により交流はなかった。	理念を玄関、ユニット等に掲示するとともに、理念を念頭において一方的な介護にならないよう、その人に合った個別ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍のため行っていない。自治会に入っているが回覧板を回すだけの関わりしか持てなかった。	自治会に加入し清掃活動に参加したり、認知症よろず相談所の開設により、地域の方の相談に乗ったりするなどにより交流する機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	つくば市が取り組んでいるよろず相談所の事業所となっているが認知度が低く相談は受けていない。事業所ではキャラバンメイトの講習を受けた者が数名いるがコロナ禍のため休止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーは区長・民生員・家族・市役所職員など。コロナ禍のため回数は減ったが事業報告と活動予定を報告している。会議で出た意見はサービス向上に活かしている。	前回課題であった「家族等からの意見の徴収」について、全家族にアンケートを行い、意見や要望を募った。運営推進会議を開催し、アンケート結果等を報告しながら会議の在り方について協議を行う予定。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課、社会福祉課、地域包括支援センターなどと連携をとりながら、協力関係を築いている。	市の地域密着型連絡会で情報交換している。要介護認定更新手続き等で電話や訪問、生活保護受給者への来訪等で日常的に交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に努めている。ベットからの転落、室内での転倒の心配のある利用者には家族と話し合い了承を得ている。センサーマット・人感センサー・モニターなどを使用して利用者様の安全に取り組んでいる	身体拘束をしないための指針の作成、マニュアルを作成するとともに、職員による委員会を設置し、毎月のリーダー会議により話し合いを行っている。センサーマット等を活用し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や不適切な介護に関しての勉強会を通じ学びを深め虐待をしない、見過ごさないよう努めている。また職員間でいつでも話し合いが出来るよう連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部勉強会に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。現在は活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定等の重要な説明は利用者や家族の不安や疑問点がないか確認しながら丁寧に説明し、理解・納得をはかっている。また疑問や不安が生じた時は随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会や電話等で話す際、ケアプラン説明等機会がある毎に意見、要望を確認している。要望は出来るだけ反映させている。	利用者の家族等には面会時、電話連絡時等、意見や要望を聞いている。アンケートの最後に意見や要望記入欄を設け、回収し分析している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別の機会は設けていないが、意見や提案を言いやすい関係づくりを心掛け、聞く努力をしている。	全体会議の後に実施している、服薬に間違いがないようとの意見が出され、ダブルチェックを行うようにした。また、利用者の状態等に応じた筋力強化等の支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、利用者の介護だけではなくレクリエーションや活動、誕生会の企画や施設の庭の管理等職員個々の実績や努力を把握し、やりがいや向上心を持って働けるよう職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し働きながらトレーニングしていくことを勧めている。また、つくば市地域密着型サービス連絡会主催の研修参加を勧め、職員は積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会を通じ同業者と交流する機会を作っている。交流会、勉強会で事例検討や意見交換を通じ、サービスの質の向上を計れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子をよく観察し色々な場面で会話を交わし耳を傾けている。自分の思いを積極的に伝えられない利用者とは、話しやすい雰囲気作りから始め、本人の望みや求めているものは何かを本人本位で捉え、得た情報は記録に残している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾けながら、信頼し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、必要な支援について話し合い、健康に関すること、衣食住、意欲や気持ちに関することなど多方面からアセスメントし、適切なサービスが速やかに行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、偏った見方をせず、日常生活の中で、個々の能力、体力に合わせ料理、洗濯、たみ、制作などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会禁止が続いていたが、面会が再開できた。面会時間に制限はあるが短い時間の中で会話を楽しんでもらった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出制限がある中でも、たんぽぽ通信で近況を伝えたり、電話で話す等出来得る限りの支援をしている。	家族との交流を大切に、たんぽぽ通信に1ヶ月の体調や生活の様子等を個別に記載したものを貼付し、近況を報告している。利用者の希望により、ドライブに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動を通して、自然体利用者同士関わっている時もあるので、その場合の介入は補助的に行っている。また、性格の相性や趣味を把握し席順を決め、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を移る利用者に対しては、これまでの生活が継続できるようホームでの生活の様子やケアの工夫など必要な情報を伝え、よりよく生活できるよう支援に努めている。何かあれば相談に乗るよう協力体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握は、その方の言動や表情から観察し利用者にとってより良い方法を検討している。その情報は経過表に記録し職員間で共有、支援に繋げている。	職員は利用者の希望や思いを言葉、表情やしぐさ等で汲み取るとともに、経過記録に記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーの情報の他、本人や家族から聞き取りをしたり、入所前に利用していたサービスに関しては前のケアマネより情報をもらい、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に1日の様子、変化、活動などを毎日記録している。心身状態の変化など大事なことは必ず連絡事項や日誌に記録し申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の定期的なモニタリングや見直しを行い、現状に即した介護計画の作成を心掛けている。課題が上がった時は話し合い、柔軟に意見やアイデアを出し合い介護につなげている。家族には見直し時に、介護計画書、モニタリング評価表を送付している。	介護計画の作成は、本人や家族から希望や意向の聞き取りとともに、職員全体のカンファレンスや各ユニット会議で話し合い、その人にあった支援ができるようにしている。介護計画は、半年ごとにモニタリングを行い、見直しを1年で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等を個人経過表にその時の状況を詳しく記録している。それらの情報は職員間で共有して、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の同席、入院時の対応、往診等、その時々状況に対応して出来る限り柔軟に対応している。住環境においては、介護チェーン エイジフリーより必要なものの購入ができ、一人ひとりが安心して生活できるよう支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域との交流はなかったが、近隣の公園に出向き、紅葉や桜を楽しむ機会があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医師の受診を支援している。受診に際しては、必要な情報を伝えている他、必要に応じ同席している。	協力機関の医師による往診が月1回と訪問看護が週1回来訪している。家族等がかかりつけ医に付き添う場合は、経過記録等で利用者の情報を伝え、医師に報告してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携しており24時間、医療連携が可能になっている。週1回の看護師の訪問時には、利用者の健康面の変化やいつもと違う点などを伝え、相談している。また、お互いの情報が共有できるように、連絡ファイルを活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から良い関係づくりを心掛け、入院時は、安心して治療ができ、早期退院につながるようお互いに必要な情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について、本人家族と話し合い、家族の意向や、主治医の指示を受けながら、訪問看護師とも連携し、方針を共有し支援に取り組んでいる。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期、看取りに関する説明を「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」により行い、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	二年に一度救命講習を受け、急変時、事故発生時の訓練を行っている。夜間の急変時対応についてはマニュアルを職員が見られる場所に掲示し、慌てず行動出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震に備えて月1回のペースで避難訓練を実施し、非常時に対応できるように備えている。年2回消防署立会いのもと訓練を行っている。消防署の話の聞いたりスタッフ間での気付き改善などを振りかえり避難時のスムーズな行動に備えている。	毎月抜き打ちで避難訓練を実施し、その都度反省・改善の話し合いを行い、次回に繋げている。非常時に首にかけられるよう、利用者一人ひとりの名前、年齢、服薬情報等を記載した個人カードを作って保管している。	備蓄品において食料品が不足していたことから食料品の拡充とともに、賞味期限付き一覧表を作成することを期待する。災害発生時に地域の方々に協力を得られるよう、避難訓練に参加していただけるよう働きかけることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	解りやすい声掛け、傷付けない言葉がけを目線に合わせて話しすることを心掛けている。	ゆっくり、はっきり話す等解りやすい声掛け、プライバシーを考慮し耳元で話すなどの配慮をしている。職員は利用者のプライドを傷つけない配慮等を行うため、言葉かけなどに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を気軽に話しができたり、自己表現につなげられるよう頃から笑顔をやさず、小まめに言葉がけをすることをしている。また、自己決定できるよう、職員の一方的な視点で言葉がけをしないよう意識しながら、個々のレベルに応じた言葉がけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の心身の状態を把握し、個々のペースに合わせ、活動や休息など希望にそって支援している。また、日常の活動は、楽しみや生きがいを探す上では重要ではあるが、本人がやりたがらない場合には、無理強いせず、興味を持てる事を探っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度訪問美容室を利用し利用者の希望に添うよう散髪している。家族が理容室を営んでいる利用者は自宅にて散髪している。日常的な細かな支援としては、起床時に洗顔が難しい方に温かいタオルを使用してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう、盛り付けに気をつけている。テーブルふき、食器拭きなど出来ることを手伝ってもらっている。	利用者の好物や苦手な物を踏まえ、献立を作成している。ホワイトボードに毎日食事メニューを記入、内容を見て会話することは楽しみとなっている。台拭き、下膳等利用者の能力に応じた手伝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や病気に合わせ摂取量の調整や形態など必要に応じた支援を行っている。水分を取らないことも多いので飲んでもらえるよう声掛けをしている。希望者には夜間帯水分補給できるように居室にペットボトルを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをし、その人に合った準備、支援(見守り、介助)をしている。口腔ケアのコップは毎回消毒し清潔を保っている。歯ブラシも除菌クリーナーを設置し毎回除菌している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を活用し、必要に応じて時間ごとに声掛け、誘導を行っている。夜間もトイレ誘導を行ったり、ポータブルトイレを利用し排泄の支援をしている。	排泄記録表により利用者の排泄パターンを把握し、時間や様子を見ながら声かけ誘導を行っている。夜間にはポータブルトイレやトイレ誘導等、利用者にあった支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足しないように夜間でも水分が摂れるようペットボトルを用意している。野菜を多く摂取できる食事の提供や牛乳の提供など工夫している。どうしても便秘傾向になってしまう方には、医師や看護師と相談し下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきという入浴が習慣になっているが入浴時間や順番は本人の希望やタイミングに合わせて柔軟に対応している。また、入浴が楽しめるように、入浴剤を変えたり、季節が感じられるように5月には菖蒲湯、冬至にはゆず湯を用意している。	入浴は1日おきに行うほか、利用者の意向に沿って可能となっている。利用者にゆず湯やしょうぶ湯を提供し季節感を味わってもらう。他、利用者の希望で入浴剤も利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように日中の活動を無理なく促し、規則正しい生活を支援している。体調がすぐれなかったり疲れが見られる時は、居室で休息してもらっている。夜間は電気や温度の調節ははかり気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃の状態をよく観察して体調の変化がある場合は申し送りで情報を共有している。頓服薬や薬の調整、追加薬に関しては、特に症状の変化に注意して観察している。薬の情報を共有する為、処方箋を個人ファイルにとじている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来ることが継続できるように、役割(洗濯物たたみ、テーブル拭きなど)を持って生活して頂いている。楽しみ事は人それぞれなので、やりたい事ができるよう色々な活動道具(塗り絵・かるた・パズル他)を準備してある。気持ち良く自然体で参加できるよう一人ひとりの性格を把握し誘い方を工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以降は外出の機会は減ったが花見、紅葉などの時期にはドライブに出かけたり、出来る範囲で支援している。	散歩、買い物同行、花見、ドライブ等による外出支援を行っている。今後は、年間行事計画を立てて支援する予定。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避ける為、金庫で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時は電話できるように対応している。家族からの電話を本人に取り次いで話せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は清潔にし、適温で過ごせるように温度湿度計や除菌脱臭付き空気清浄器を設置し、より居心地良く過ごせるよう工夫している。ホールや廊下には季節感の作品や花を飾ったり、行事ごとの写真を掲示したりしている。トイレは時間を決めて掃除をし気持ちよく使用できるよう心がけている。	リビング、廊下などに利用者と職員の製作した手芸品や行事を楽しむ利用者の写真などが飾られ、家庭的で生活感があり温もりが感じられる。空気清浄機を設置して、温湿度、換気等に気を配り、毎朝利用者と職員で清掃する等、清潔で安心して過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには畳スペース、ソファー、食卓テーブルの3つの空間があり活動やDVD鑑賞、雑談など、利用者同士の交流を深めながら良好な関係性を築いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切なものを置けるスペースがあり入所前の習慣、希望に応じて、家具、椅子など、馴染みのものを置いて居心地よく、安心して生活できるようにしている。また家族と一緒に撮った写真、手紙などを飾っている。	利用者は時計、テレビ、テーブル、椅子、家族の写真など自宅で使っていた馴染みの物を置いてその人らしい居心地が良く生活できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関には靴箱のとなりにベンチがあり、利用者が安全に靴のはき替えができるようになっている。廊下、トイレ、浴室などには手すりがある。ホールには手洗いや口腔ケアが行えるよう洗面台がある。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームたんぼぼ
作成日 令和6年1月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	外部 13	賞味期限切れのため備蓄品を処分後補充、見直しがきちんと出来ておらず、危機管理が後回しになってしまった	災害時に慌てることなく対応できるよう定期的な備蓄の補充、見直しを行う	備蓄一覧票を再作成し、賞味期限の把握、物品の入れ替えを行う 災害発生時に地域の方々に協力を得られるよう定期的に訓練に参加して頂けるよう自治会へ呼びかけをお願いする	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。